

# HPE Unified Functional Testing

ソフトウェアバージョン: 14.00

## 新機能

ヘルプセンターにアクセス

<http://uft-help.saas.hpe.com/>



**Hewlett Packard**  
Enterprise

ドキュメントリリース日: 2017 年 1 月 (英語版) | ソフトウェアリリース日: 2017 年 1 月

## ご注意

### 保証

Hewlett Packard Enterprise Development LP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPEはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPEからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されません。

### 著作権について

© Copyright 1992 - 2017 Hewlett Packard Enterprise Development LP

### 商標について

Adobe®はAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<https://softwaresupport.hpe.com>

このサイトを利用するには、HPE Passportへの登録とサインインが必要です。HPE Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<https://softwaresupport.hpe.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

# UFT 14.00 の新機能

このトピックの内容：

- 「UFT ライセンスのエディションと構成」(3ページ)
- 「UFT の Microsoft TFS CI システムとの統合」(4ページ)
- 「記録と実行環境設定のデザイン変更」(4ページ)
- 「GUI テスト用のテストの組み合わせジェネレータ」(5ページ)
- 「UFT ヘルプのオンライン・アクセス」(5ページ)
- 「モバイルの機能強化」(5ページ)
- 「MQTT プロトコルに対する API テスト サポート」(5ページ)
- 「新しいスナイパー・モード」(5ページ)
- 「ローカライズおよび UFT ツール・サポートの変更」(6ページ)
- 「テクノロジー固有の機能強化」(6ページ)
- 「ローカライズ」(6ページ)
- 「新しいテクノロジーとフレームワークのサポート」(7ページ)

## UFT ライセンスのエディションと構成

バージョン 14.00 では、UFT ブランドに UFT Ultimate, UFT Enterprise, UFT Pro(LeanFT) の各エディションが追加されました。利用できる UFT 機能はエディションによって異なります。

対応している製品：	ライセンス名		
	UFT Ultimate	UFT Enterprise	UFT Pro (LeanFT)
UFT	✓	✓	x
UFT Pro(LeanFT)	✓	✓	✓
Sprinter	✓	✓	x
BPT	✓	x	x
Mobile Center (機能テストの場合のみ)	✓	x	x

詳細については、当社の製品ページ(<https://saas.hpe.com/software/uft>)を参照してください。

この変更が既存のライセンスで利用できる機能に影響することはありません。

- 以前の UFT ライセンスは、UFT Enterprise に名称が変更されました。
- 以前の LeanFT ライセンスは、UFT Pro(LeanFT) に名称が変更されました。

これまでと同様に、**UFT ランタイム・エンジン・ライセンス**を使用すれば、UFT テストまたは LeanFT テストの実行のみが行えます。UFT ランタイム・エンジン・ライセンスでは、テストを作成または編集したり、UFT IDE や LeanFT IDE のプラグインにアクセスしたりすることはできません。

詳細については、[Functional Testing ライセンスのエディションに関するトピック](#)を参照してください。

## ライセンスの移行

コンカレント・ライセンスをお持ちの場合は、ライセンス・サーバの IP アドレスに基づいたライセンスの代わりに、**デバイス ID ベースのライセンス**への移行を選択することもできます。

これを選択する場合は、すべてのコンカレント・ライセンスを移行する必要があります。

注: 新しいライセンス・エディションへの移行は必須ではありません。また、既存のライセンスには後方互換性があります。

## ライセンス・サーバの設定

UFT インストールで提供する設定ファイルを使用して、コンカレント・ライセンスの一般的な動作を編集できるようになりました。

詳細については、[ライセンスに関するよく寄せられる質問](#)を参照してください。

Autopass License Server バージョン 9 以降を使用することをお勧めします。

ライセンス・サーバの使用の詳細については、HPLN の「[AutoPass License Server User Guide](#)」を参照してください。

## UFT の Microsoft TFS CI システムとの統合

UFT TFS 拡張を使用し、Microsoft Team Foundation Server (TFS) CI プロセスの一部として UFT テストを実行します。

詳細については、[UFT TFS Extension wiki](#)を参照してください。

## 記録と実行環境設定のデザイン変更

[記録と実行環境設定] ダイアログ・ボックスのデザインを変更し、アプリケーションの記録と実行環境設定を行う際の操作性の拡張と改善を行いました。

注: これらの UI 変更には完全な後方互換性があるため、テストを実行する前に実行設定や記録設定を更新する必要はありません。

## GUI テスト用のテストの組み合わせジェネレータ

GUI テストの作業を行う際に、テストの組み合わせジェネレータが利用できるようになりました。

このツールを使用すると、グローバル・データ・テーブルのパラメータ値のセットを自動生成できます。また、以下のようなことも可能です。

- 複数のパラメータ値で構成された合成パラメータの生成
- 生成した設定からのパラメータの除外

詳細については、[テスト設定の生成方法に関するトピック](#)を参照してください。

## UFT ヘルプのオンライン・アクセス

標準設定で、UFT ヘルプセンターにはオンラインでアクセスできるようになりました。

- 任意のブラウザから、オートメーションおよび Extensibility のヘルプを含むドキュメントにオンラインでアクセスできます。
- サイトの検索エンジン( Google を利用) を使用して、すべての UFT ヘルプ・ファイルを検索できます。

検索ページのタブをクリックすると、検索結果を絞り込むことができます。

- フッタのリンクをクリックすると、[docteam@hpe.com](mailto:docteam@hpe.com) にフィードバックを送信できます。

UFT ヘルプセンターは UFT インストールには付属しなくなりました。

ヘルプセンターをダウンロードして、UFT ヘルプの標準設定を切り替えるには、[オプション] ダイアログ・ボックスの[ヘルプ] 表示 枠 ([ツール] > [オプション] > [一般] タブ > [ヘルプ] ノード) を参照してください。



ヒント: サイレント・インストールを行うために Help\_Documents MSI パラメータを使用しているスクリプトがある場合は、スクリプトを更新してください。

## モバイルの機能強化

UFT でモバイル・デバイスでのセンサ・シミュレーション操作がサポートされるようになりました。

詳細については、「[Mobile Center 2.2 の新機能](#)」および [Mobile Center ヘルプ](#)を参照してください。

## MQTT プロトコルに対する API テスト サポート

サービス・レベルで通信に MQTT プロトコルが使用されている場合に、アプリケーションの API テストを使用できるようになりました。

## 新しいスナイパー・モード

新しいスナイパー・モードを使用すると、アプリケーションの所定の領域内のすべてのオブジェクトをすばやく学習できます。

詳細については、[オブジェクトのキャプチャに関する項](#)を参照してください。

## ローカライズおよび UFT ツール・サポートの変更

- UFT インストールは現在、英語、中国語、日本語、ロシア語、フランス語、ドイツ語で提供されています。
- インストール後は JRE UFT ツールが利用できなくなりました。このツールは Java 5 で使用されていましたが、Java 5 は UFT でサポートされなくなりました。
- Extensibility Accelerator は UFT セットアップから削除されました。UFT 14.00 で Extensibility Accelerator を使用するには、[ExtAccTool.zip](#) ファイルをダウンロードし、[『Extensibility Accelerator Developer Guide』](#)の説明に従ってインストールします。

## テクノロジー固有の機能強化

以下のように、各種テクノロジー上に構築されたさまざまなアプリケーションをテストする機能を強化しました。

Flex	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての Flex オブジェクトで、テスト内のダブルクリックに DbClick メソッドを使用</li> <li>• FlexTable オブジェクト用の ActivateCell メソッド</li> <li>• 個々のテーブル・セル外での FlexTable オブジェクトの使用</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">『UFT Object Model Reference for GUI Testing』の「Flex」の項</a>を参照してください。</p>
UI オートメーション	<p>ネイティブ・オブジェクト・メソッドのサポートの改善(これらのオブジェクトおよび UIAutomation ユーティリティ・オブジェクトでの記述的プログラミングの使用を含む)。</p> <p>詳細については、<a href="#">UI オートメーションのネイティブ・メソッドに関するトピック</a>および <a href="#">『UFT Object Model Reference for GUI Testing』の「UIAutomation ユーティリティ・オブジェクト」</a>を参照してください。</p>
Oracle	<p>OracleForms 12c サポート用の新しい Oracle オブジェクトとして、OracleCalendar および OraclePickList が導入されました。</p>
Java	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Java 8 が UFT 14.00 にバンドルされ、UFT とともにインストールされるようになりました。</li> <li>• Java 8 でアプリケーションを使用する場合に、-noverify 属性を追加する必要がなくなりました。</li> </ul>

## ローカライズ

UFT 14.00 は英語の他に以下の言語で利用できます。

日本語、中国語、ロシア語、フランス語、ドイツ語

## 新しいテクノロジーとフレームワークのサポート

UFT では、次の新しいテクノロジーとフレームワークがサポートされるようになりました。

- Firefox および Chrome の最新バージョン。
- Windows Server 2016
- Autopass License Server 9.3
- EXT-JS 6.0
- SiebelOpenUI 16
- Safari 10.12(「Sierra」)
- SAPUI5 1.38
- Testing Extensibility SDK 用の Visual Studio 2015
- Solution Manager 7.2
- Delphi Berlin 10.1
- SAP Hybris

詳細については、[Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス](#)を参照してください。

# フィードバックの送信



新機能を使用してお気づきになった点をお知らせください。

電子メールの宛先: [docteam@hpe.com](mailto:docteam@hpe.com)



  
**Hewlett Packard**  
Enterprise

